

2022 年 12 月 22 日

NEXT Logistics Japan 株式会社

## 「ドライバー不足によりモノが運べなくなる」という社会課題解決に向け NEXT Logistics Japan の取組を拡げる、新たな枠組み「NLJ Plus+」スタート ～より広く・オープンな仲間作りによるオールジャパンでの取組みを加速～

NEXT Logistics Japan 株式会社(本社:東京都新宿区、社長:梅村幸生、以下 NLJ)は、ドライバー不足解消や脱炭素化など、物流業界が直面する社会課題の解決に向けた取組みを、日本全体でより一層加速することを目指し、この度「NLJ Plus+」を設立いたしました。

NLJ はこれまで、取組みにご賛同いただいたさまざまな業界を代表する 20 社のパートナー企業<sup>\*1</sup>と共に、各社の専門的な知見・技術を活用し、「ドライバー不足によりモノが運べなくなる社会課題の解決」に向けて高効率輸送スキームの構築を進めてまいりました。パートナー企業からは出資に加え、ヒト・モノのリソースを共有いただき、NLJ が目指す物流ソリューションの仕組み・ノウハウの構築をおこなっております。

この度設立した「NLJ Plus+」は、より幅広く、そしてオープンな形で仲間づくりを進めるため、出資を伴わずにご参加いただくことができます。新たに仲間となった参加企業に、これまで NLJ がパートナー企業と共に培ってきた各種ソリューションを活用いただくことで、物流業界における社会課題の解決を目指す、想いを共有する仲間の輪を、一層広げてまいります。

少子高齢化や物流業界における 2024 年問題に起因し、このままでは「モノが運べなくなる」という社会が着々と近づいてきており、これを食い止めるために、業種・業態の壁を越えた「オールジャパン」での取組みがますます必要となります。NLJ では、パートナー企業に加え、「NLJ Plus+」参加企業とともに、人々の生活と密接に結びつく社会インフラである物流を持続可能なものにしていくためにも、物流における効率化・省人化や CO2 排出量の低減の実現に向けて、一丸となり取り組んでまいります。

■「NLJ Plus+」参加企業 (2022 年 12 月 22 日時点 五十音順) 全 13 社



 Eat Well. Live Well. <b>Ajinomoto</b> <b>味の素</b> 株式会社	 <b>RIKYU</b> <b>愛知陸運</b> 株式会社	 <b>KAO</b> <b>花王</b> 株式会社	 <b>Kabaya</b> <b>カバヤ食品</b> 株式会社	 <b>KANKU</b> <b>関空運輸</b> 株式会社
 <b>GLT</b> <b>グリーンライトラスト</b> 株式会社	 <b>コーナン</b> <b>コーナン商事</b> 株式会社	 <b>SUNTORY</b> <b>サントリーホールディングス</b> 株式会社	 <b>DAIWA CAN</b> <b>大和製罐</b> 株式会社	
 <b>FUJIFILM</b> 富士フイルム ロジスティクス株式会社 FUJIFILM Logistics Co., Ltd.	 <b>meiji</b> <b>株式会社</b> <b>明治</b>	 <b>森永乳業</b> <b>森永乳業</b> 株式会社	 <b>YAMAOKA</b> <b>山岡産輸</b> 株式会社	

■NLJの取り組みと目指す姿

「ドライバー不足によりモノが運べなくなる」社会課題の解決を目指し、CASE※2技術を活用した高効率輸送スキームの構築

✓ 効率化・省人化

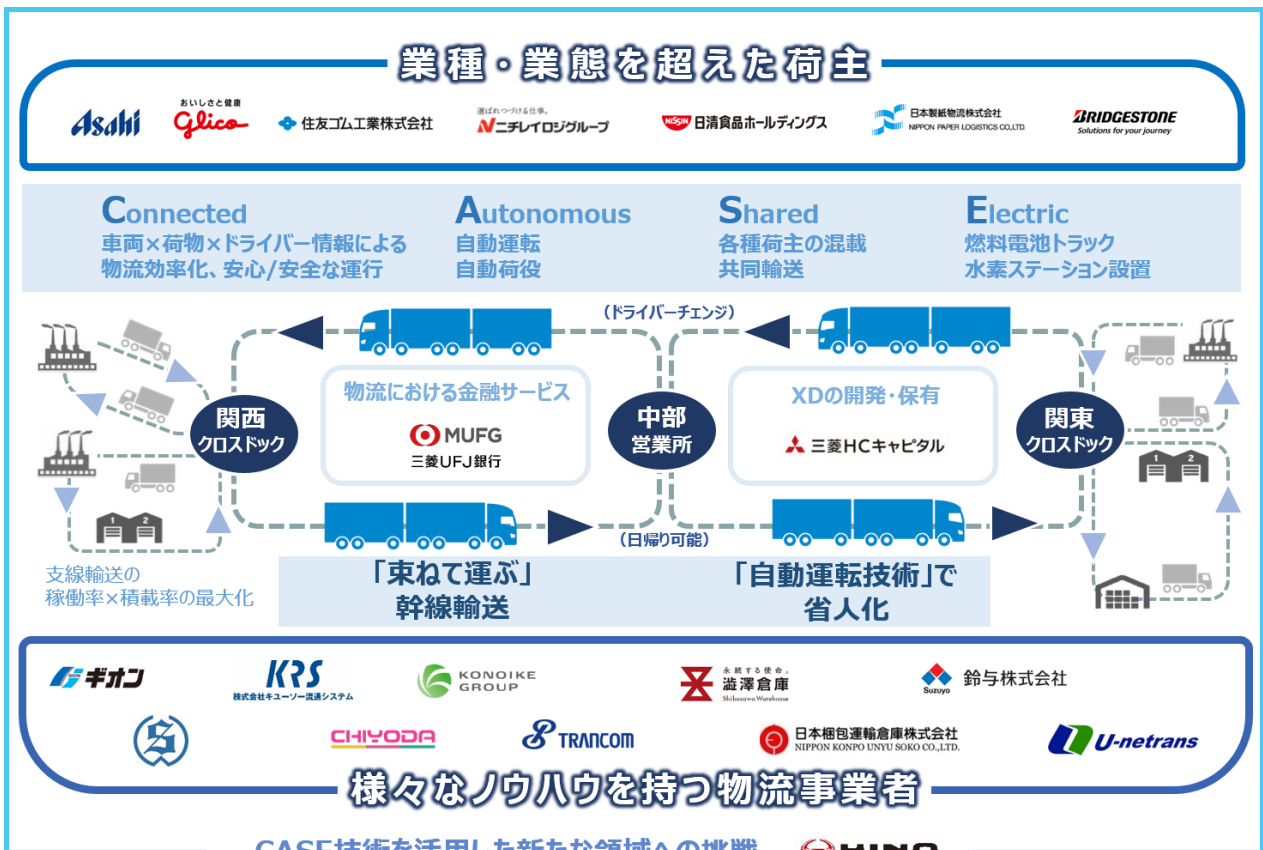
業種業態を超えた多様な荷物を混載した高効率輸送、また自動運転技術を活用した輸送人員の省人化を実現

✓ CO2 排出量低減

各社の荷物を束ねてより少ない車両で運び、且つ最先端技術の車両を活用することで環境負荷を低減




✓ 物流業界の価値向上

先進技術の活用や新たなサービスの企画開発等により付加価値を創出し、物流業界の発展に貢献



※社名は五十音順

NLJ は 2019 年 12 月の事業開始から約 3 年で、幹線輸送の省人化・効率化の取り組みにより、従来比で運送人員を 43%削減、CO2 排出量の 28%削減を実現しました。業種業態を超えた荷主からの荷物を、総勢 20 社のパートナー各社が持つそれぞれの知見・ノウハウを融合し、幹線と支線を総合してコントロールし、輸送することで、「運送人員を 1/6」、「CO2 排出量ゼロ」を目指してまいります。

省人化の効果 	▲4,331人 ▲43%
CO <sub>2</sub> 低減の効果 	▲971トン ▲28%
運んだ荷物の量 	87,055トン

(2022年11月30日時点)

※1 アサヒグループジャパン、江崎グリコ、ギオン、キューソー流通システム、鴻池運輸、澁澤倉庫、鈴与、住友ゴム、摂津倉庫、千代田運輸、トランコム、ニチレイロジグループ、日清食品ホールディングス、日本梱包運輸倉庫、日本製紙物流、日野自動車、ブリヂストン、三菱 HC キャピタル、三菱 UFJ 銀行、ユーネットランスの 20 社

※2 Connected:コネクテッド、Autonomous:自動運転、Shared & Service:シェアリング/サービス、Electric:電動化 4つの技術要素を組み合わせ、安全快適で利便性の高い次世代のモビリティサービスを構築すること

#### <問い合わせ先>

NEXT Logistics Japan 株式会社 仲間づくり Div TEL:03-6911-1691 e-mail:nlj-support@next-logistics-jp.jp